

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	かぶとむしクラブしらかべ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 5日		～ 2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年 2月 17日		～ 2025年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	従業員全体で常日頃より支援についての話し合いを設け、一人一人に必要な支援や改善策等話し合っている。	児童生徒について気付いたことや気になったことは一人で抱え込まずに全体に共有。 若しくは管理者等に共有を行い、全体にて話し合いを行う。 また考えられるリスク等も合わせて話し合い、より深い支援に繋げている。	一人一人のスキルを上げていくために定期的な研修等を開催するなど、一人の能力アップが教室の能力アップに繋がるよう整備する。
2	児童生徒の意見を受け止め尊重している。 児童生徒が自身で考え、発言するなどの機会の提供を多く設定している。	従業員が教室内の決まり等を設けるのではなく、児童生徒に考えさせるため、行動に伴い想定される結果を共有する。 それをもとに児童生徒は意見を述べあい、自分たちで決まり等を作成する。自身の意見を伝える力や物事を考える力がついてきており、新規で登録された児童生徒には決まり事が定着化した児童生徒が説明を行う環境もできた。	高学年向けにディベート等を行いたいと思う。 難しい観点についても考え、意見を伝えることが出来るような体制を整えたい。
3	児童生徒が遊びたいもの等を選んで行動できるように支援道具を配置している。	自身で遊び道具を選べるように配置しており、片づけ等も自身で行えるようにしている。自身で取ることが難しい時には周りの人にお手伝いをお願いするなど、自身の気持ちを選択出来るようにしている。	遊び道具に関しては固定化していく可能性が高い為、リクエストボックス等を用いて別の形で自身の気持ちを伝える場を増やしたいと考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーに対応していない。	段差等があり、現在そこに対して困り等も出てはいないためバリアフリー化については話し合いが行われていない。 今は段差の状況を利用して、段差に気をつけて活動しよう等の声掛けに繋げている。	保護者様より要望があった際には、事業所及び法人にて対策を考える。状況によっては工事を行い、スロープ等の設置を考える。
2	地域交流の観点で新しく繋がれる方が少ない。	昼食提供や地域の祭りの参加等で地域交流を図ることができている。より多くの人に理解と協力を頂きたいと考えているため、現状では課題と捉えることもできる。	地域を巻き込んだ活動等も行いたいですが、協力して下さるよう連携を取る必要があるため、こちらだけの利点ではなく先方にとっての利点も明確に提示したいと考える。
3	お部屋の死角となる部分がところどころ見られる。	異年代・異性が多く利用する場であるため、死角があることで起こりうる行動が考えられる。児童生徒は興味を持ったことに対しては純粋に行動するため、こちらが対応すべきことも多くある。	死角となる場所は職員も把握しているため、教室内の児童生徒の人数の把握、及びどの部屋で誰が活動しているかの把握を行っている。教室内を随時職員が見渡すなど、起こりうるリスクは管理している。現状大きな問題は起きていないため維持向上を図る。